



映像作家
今村彩子
「障害者とともに」を
考える企画グループ
ちまちま工房
「ゆめ風基金」Vol.2

映像作家

今村彩子上映・シンポジウム

日時 2011年 6月12日(日) 13:00~16:00

場所 箕面文化・交流センター 8階 大会議室
(阪急箕面駅 下車すぐ みのおサンプラザ 1号館内)

プログラム

* 1部 ドキュメンタリー映画上映(監督 今村彩子)
「架け橋～東日本大震災 宮城の被災ろう者は今～」

* 2部 シンポジウム
「今私たちができることは
～東日本大震災を取材・救援の報告から」

シンポジスト

今村彩子さん(映像作家/Studio AYA 代表)

古井正代さん(脳性まひ者の生活と健康を考える会 代表)

* コーディネーター 永田千砂

(「障害者とともに」を考える企画グループ ちまちま工房 代表)

定員: 120名(先着順)

参加協力金 500円
内 200円を義援金として
「NPO 法人 ゆめ風基金」へ
届けます。

●手話通訳・要約筆記あります。
点字資料が必要な方は、
事前にご相談ください。

参加ご希望の方は
裏面の参加申込用紙に
ご記入の上、FAXもしくはメールにて
お申し込みください。→ぜひ裏面もご覧ください。

「映画で共に生きる社会を
被災地を取材した記録から」

主催・問い合わせ 「障害者とともに」を考える企画グループ ちまちま工房
大阪府箕面市桜井2-10-5 桜井市場内

TEL: 072-735-7901 FAX: 072-725-0244

E-mail: megane@chima-chima.com HP: <http://www.chima-chima.com/>

協力: 元気の風・豊能障害者労働センター・箕面市聴力障害者協会

後援: 箕面市・箕面市教育委員会・(特活) 箕面市の障害者の生活と労働推進協議会

(特活) ゆめ風基金・みのおみちくさロード・(特活) 市民活動フォーラムみのお

「ちまちま工房」は、
箕面市の中で、
ひとりひとりのありのままを
尊重される社会をめざして
多くの方とつながりながら
街を耕し、明日を創っています。
障害をもっている人をはじめと
する働きにくさを持っている人ととも
に働く場を立ち上げていくため、
現在、準備しています。

今村彩子さんから被災地の取材を通してろう者の置かれている現状を、被災障害者の支援をしている古井正代さんから福島の障害者の方の現状を報告いただきます。

そして、今私たちができることは何か。今必要とされていることは何かを話し、一人ひとりができることを考え、実践につないでいきたい、という強い思いをこめて開催いたします。

みなさまのご参加スタッフ一同お待ちしております。



●津波の被害を受けたろうの方が経営している理容院

ちまちま工房のスタッフに福島県いわき市出身者がいます。

大震災が起こり、彼女はボランティアとして宮城へ行き、実家の福島へ。

一緒にこの企画を運営できないのではないだろうかと思った矢先、「箕面に帰ってきました。」と連絡が入りました。たくさん話をしました。そして、わたしたちは一緒に被災地に思いを馳せ、少しずつでもできることをしていくことになりました。

地震と原発事故が起こってすぐの頃は、本当に気が気でなかった。眠るときもテレビをつけっぱなしにしている、地震速報の音で目が覚める日が続いた。電話やメールで家族と連絡を取り続けていたが、眠っていたり、他のことをしたりしている間に、いつの間にか家族が消えているなんてことになったらどうしようと思って不安だった。自分の心境と大阪の街にはすごくギャップがあって、苦しかったし、ここにはいるべきでないと思った。一刻も早く家族の所に行きたいと思っていたが、なかなかそれができず、ようやく宮城でのボランティア募集に乗かって3月末から宮城に入り、1週間ほど活動した。

私にとってはどうしても参加しなくてはという思いで参加した活動だったが、ボランティアの中には「自分だったら福島県には滞在したくない」とか平気で言う人がいたり、他にも原発に関する冗談を言う人がいたりして、本当に残念に思った。実際に被害にあっている人の立場にたてば、自然にわかると思うし、ボランティアで来る人として



●被災地を取材撮影している今村彩子さん

はありえないと思う。もちろんすごく悪意があるとは思わないし、話したら理解するのだろうと思う。でもやはり、支援する側として寄り添う気持ちがないの

に、とりあえずノリで被災地に行くというのは本当にやめてもらいたい。

宮城での活動が終わってから福島の実家へ戻った。戻りのバスに乗った時、知らない女の子が「こんなに福島に行く人がいるんだ、うれしい」とつぶやいたのを漏れ聞いた。その言葉通り、宮城から福島に向かうバスは満員に近い状態だった。福島県産の牛乳や野菜がたとえ安全でも他県で売れなかったり、福島から来たと言った人が避けられたりするような信じがたい状況がある中で、その言葉はせつなかったうれしかったので泣けた。

福島には2週間ほど滞在して、被害にあった家の片づけを手伝うボランティアをした。宮城でもそうだが、被害が大きかったのは基本的に津波の影響を受けた沿岸部で、少し離れた内陸部はライフラインも復旧してきていて、普通に住めるし、仕事もできる状況だった。ただ、福島の場合、目に見えない放射線におびえながらみんな生活している。大きな余震がある度にまた原発の状況が悪化するのではないかと心配になる。明らかにならないことが多すぎるし、毎日のように「タダチニジンタイニエイキョウハアリマセン。」とか魔法の言葉を使う人たち自身が、自分の身体を使って証明してくれたらいいのにと感じてしまう。

私は今、収入が安定してなくて、そういう状況だと実家には居づらく、またいろいろ中途半端にしていることが大阪に多々あったので、ひとまず大阪に戻ってきている。これから一体どうするのが良いのか、考えている。今なお進行中の事態を思うと焦りはあるけど、自分がすべきことをしっかりやりつつ、細くても長くなにか自分にできることをしていきたいと思っている。今回の催しでは、参加した方たちと一緒に考えていければと思う。

ちまちま工房 中村則子

参加申し込み用紙

FAX
072-725-0244

E mail
megane@chima-chima.com



※ご記入いただいた個人情報は、このイベント以外には使用いたしません。

① お名前	② 所属団体
③ ご住所	④ お電話
⑤ E mail	⑤ FAX
⑥ ⑦ 複数のお申し込みの場合人数	名様
⑧ ご連絡欄	